

延世大学語学堂の五週間夏季プログラムについて

平野邦輔

2016年の6月末から五週間、延世大学語学堂の夏季プログラム2級を受講しました。通常の期間のプログラムについてはいろいろな人がすでに体験記を書いているのですが、夏の場合は少し事情が特殊で、情報もあまり出回っていないように思えたので、もし参加を考えている人や興味のある人の参考になればと思い、私自身の経験を振り返って思ったことを書きます。

最初に断っておきますが、もちろん完璧なプログラムはどこにもないし、実際の経験は何級に行くか、どんな先生か、クラスメートか、によってもばらつきがあると思います。あくまで以下は私の主観ですので、参考程度にどうぞ。

結論から言うと、悪い！というわけでもないけど、特にお勧めもしません。これは既にある程度韓国語ができる、英語圏出身者用のプログラムだなあという印象を受けました。日本出身の人はこちらより、3週間のプログラムに行く人が多いんでしょうか。

まず残念な点としては、教材が充実していないこと。延世の通常の学期は教科書、ワークブック、単語帳などいろいろと使えるのですが、この5週間プログラムでは「100時間韓国語(100 시간한국어)」というのを一冊だけ使います。一応出てくる文章で使うボキャブラリーなどは載っているのですが、文法の解説が、本当に英語でちょろっと書いているだけです。参考書を買ったり、インターネットの解説を参照した方が良いでしょう。授業でも文法の説明はしてくれるのですが、全部韓国語なので、何が説明されているのかわからないことも多々ありました。韓国語と日本語は言語的に近いので、比較しながら勉強するのが効率的だと思います。ミシガン大学で韓国語を勉強していた時は、会話や単語の英語訳がわかりにくくて、Naverを使って日本語に翻訳したり、日本語ができる韓国人の友人に質問したりしていました。これは有益だった一方、時間がかかります。今回はそれをしなくてもいいつもりでいたのですが、正直がっかりしました。

通常の期間には日本人が多いと聞いていたのですが、夏季のプログラムでは、おそらく見た感じ70～80パーセントが、英語圏出身の韓国系の、20歳前後の子たちです。とあるクラスでは、13人中12人がこのカテゴリーの学生だったとか…。期間的にもアメリカの夏休みなので、高校を卒業して9月から大学に進学する子、または在学中の子などがほとんどです。彼、彼女らの特徴としては、韓国語は聞いてわかる、ある程度話せるけど、読んだり書いたりができないという点です(個人差あり)。

これに関連して、授業内で起こったことで一点気がかりなことがありました。クラスの半分以上がリスニング（とスピーキング）のできる韓国系の学生だと、授業がその子たちの理解を中心に行われる可能性があります。1級も2級も、基本韓国語で授業が行われるのですが、学生から出る質問が英語だったり、先生の話す韓国語が理解できる学生のペースで授業が進んだりします。ですので私のようなできない学生は、当てられなくても積極的に発言しないと、あまりフィードバックがもらえません。嫌がられても積極的に発言しましょう。笑 韓国系の子たちは授業にこななかったり、宿題をやらなかったりしても、テストやプレゼンは非常にできます。人と比較しないで頑張った方がいいです。

アメリカの大学で3年間日本語を教えていた経験から言うと、上記のような Heritage Learner（家で親と当該言語で会話したりする）と、一般の学習者を混ぜるのは実はあまり得策ではないと思います。例えばボストン大学の韓国語プログラムでは、Heritage Learner は一般の学習者と分けられたクラスで勉強します。韓国語を教えていた元同僚曰く、進度が全然違うそうです。私が日本語を教えた中でも、2人だけ上記のような Heritage Learner がいました。両者ともよく勉強する賢い子たちだったのですが、それをさし引いても、他の学生と飲み込みの早さが全然違いました…。なので、教授法を分けたほうがいいのではないのでしょうか。クラス編成的に難しいのかな。

授業以外でも、プログラム全体が、英語圏からの学生中心にアレンジされる印象を受けました。例えばオリエンテーションなどの言語は韓国語と英語です。通常のオリエンテーションは英語、日本語、中国語でも行われるらしいですが、スライドに多少日本語が出ることもあったけれど、今回は韓国語→英語の逐次通訳でした。そして、クラスメートとの社交、宿題についての Kakao Talk 上でのやり取り、午後のアクティビティでの解説などは基本英語（そして若干の韓国語）です。ここで日本語しかわからないと、結構な疎外感を感じるかもしれません。放課後のアクティビティは料理教室とテコンドーを選択しました。実演を見たり説明を聞くと、さすがプロ、という腕前でした。材料などはあらかじめ準備されているので、実際に作るのは簡単で楽しいです。その日の昼食は控えめにしましょう。テコンドーは、先生が易しい英語で哲学的な話や動作の説明をしてくれます。練習相手とは英語で会話します。結構蹴り合いとか、技の練習を一緒にするので、ここでミスコミュニケーションがあると怪我につながるのでは…。

ちなみに通常 Semester（200 時間）に比べて時間は半分なのに、費用は同じくらいです。これは上記のアクティビティとか、DMZ（北朝鮮との非武装国境地帯）に行くツアーの費用なども含まれています。クラス対応タレントショー（強制）もあって、私のクラスでは自発的に 20 時間くらいダンスの練習をしました。とても楽しかったのですが、発表会前の週はこのおかげで全然勉強せず。

あと、語学堂は延世大学の中でも端っこにあるので、新村駅から20分くらい歩きます。寮からはバスが出てますが、自分でアパートを借りる場合は、語学堂からの距離に注意したほうがいいです。新村駅からも一般のバスはありますが、それほど頻繁にあるわけではなく、結局一度しか乗りませんでした。そして梅雨の季節には結構な量の雨が降ります。私は駅前のオフィステルを Airbnb で借りました。高かったですが、一ヶ月以上の契約で3割引でした。寮はシャトルバスが便利だけど、2人一部屋だったり、うるさかったり、語学堂以外には行きにくかったりします（寮生談）。

ですので、以上のことを念頭に置いた上で夏季の5週間プログラムに来た方がいいと思います。他の大学のプログラムもありますが、どこも一長一短のようです。私の場合、通常の学期よりもシンプルなテキストを使って、聞き取り能力の非常に高いクラスメートと一緒に勉強して、授業に参加して、かつ内容を消化するためには、相当量の勉強量が必要な印象を受けました。一方でアメリカの有名大学に在籍、進学している学生がとて多かったので、そちらの人脈の開拓をしたい人にはいいかもしれません。